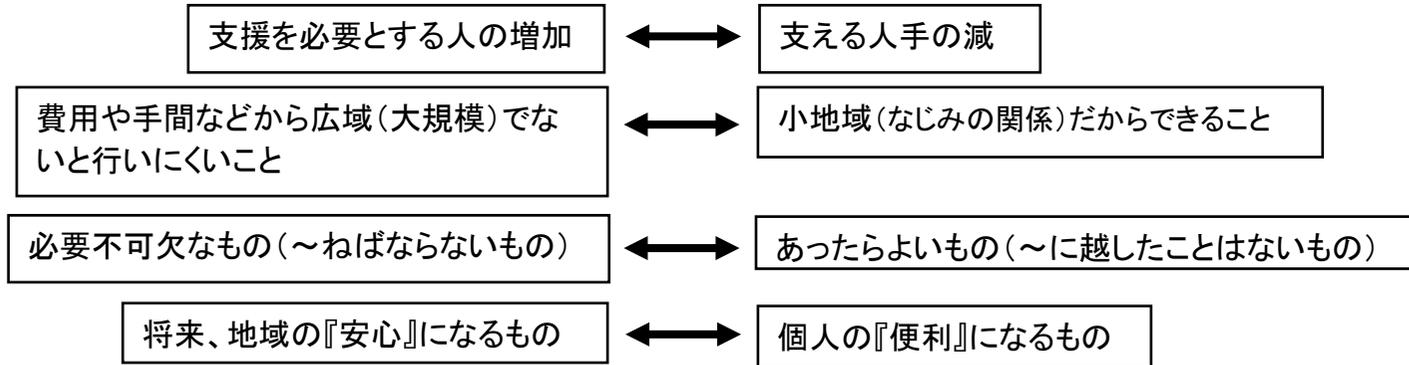


平成29年度 第2回お互いさま推進協議会 まとめ

色々なズレを再確認

今回は町域のお互いさま推進協議会、地域の一色小学校区福祉協議会の活動内容、役割分担などについて整理を行い、具体的な課題としての買物、交通(移動支援)について意見を交わしました。

その中で、様々な不適合(アンマッチ)やギャップ(ずれ)が支えあいのまちづくりの障壁となっていることを再確認しました。



広報活動と資源整理

これから先、お互いさま推進協議会の活動を進めていくためには、やはり少しでも支えあいの活動の必要性を理解し、一緒に考え、活動していける仲間を増やしていくことが不可欠です。そのために、お互いさま推進協議会の取り組みの周知が必要です。

また、お互いさま推進協議会の活動がを明確にするためにも、まず資源整理し町にあるものを見える化していくことが重要です。

『支え手』だけが頑張るのではなく、
『支えられる側』も知識、認識を揃える
個人の自助を強める

『新しく始める』より『今あるものを活かす、つなぐ』
便利に使う ⇒ 上手に活かす

『必要だね(ニーズ)・あったらいいね(ウォンツ)』
をできるだけ少ない負担でできる方法を考える。
無理はしないで楽しむ

当面の取り組み

今ある制度、資源、ネットワークを『見える化』する

- 資源整理表の整備(町や社協中心に全員)
- 会で情報の持ち寄り、意見交換、更新

お互いさま推進協議会の活動を周知する

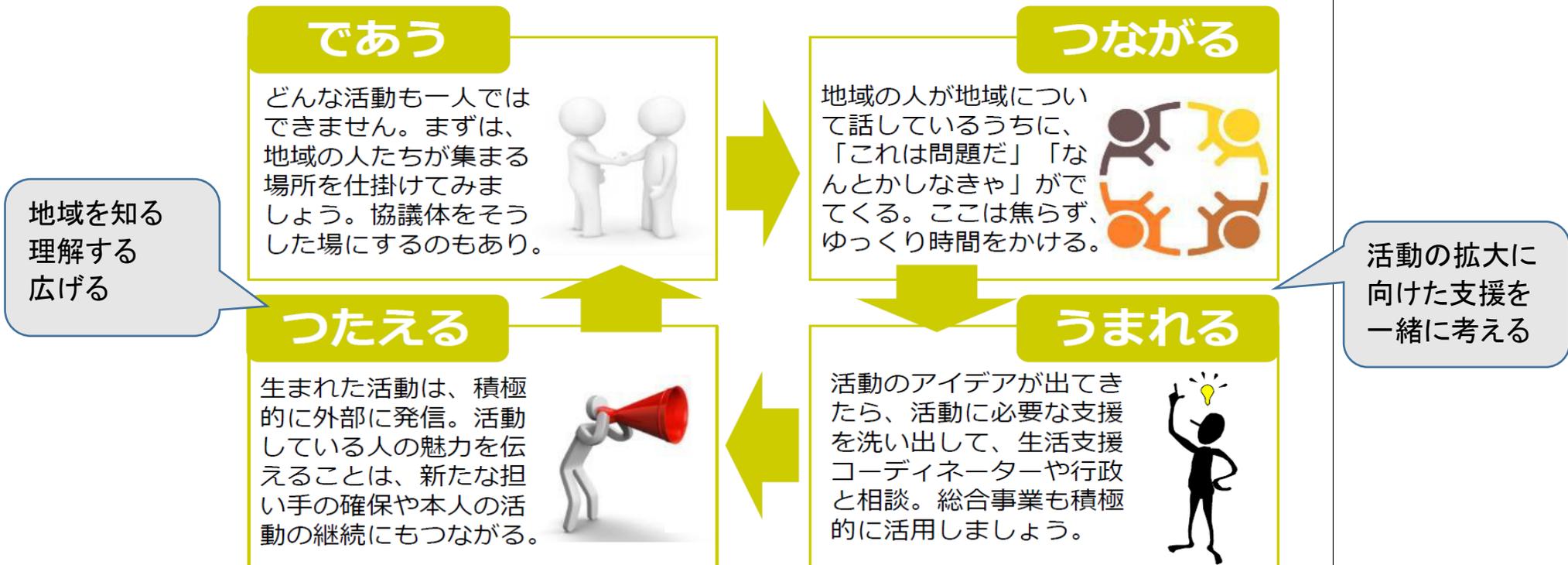
- セミナーや研修会の開催(行政や社協中心)
- チラシやパンフレット、資源整理表をもち口コミで仲間を増やす(各種団体・個人中心)

活動に賛同し楽しんで取り組める仲間を募る

- なによりも『自分が楽しい』を大切に
取り組むことを広める
- どうやったらできるか知恵を出し合う

今あるものを再認識・お互いの価値に ⇒ 『情報の共有・見える化』
 同じ思いをもった人はきっといる ⇒ 『普及啓発・仲間づくり』

例えば、こんな風に「はぐくむ」プロセス



出典 三菱UFJリサーチ&コンサルティング副主任研究員 齋木由利氏作成資料

組織化に向けた必要な資源のマッチング、
 財政的支援の検討